

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後デイサービス暖母多の津Ⅱ		
○保護者評価実施期間	R7年 1月 15日		～ R7年 3月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	R7年 3月 21日		～ 年 月 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	R7年 2月 15日		～ R7年 3月 21日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・各学校、学級、担任の先生の方針や対象児童に対する思いなど、まずは周囲の環境のアセスメントを大切にしている。	・訪問員と特定して配置し、関係性が取れやすい様工夫している。	・学期に1度の連携会議を提案し、学校や学級運営、担任の先生の方針や評価を共有し、母集団の成長を踏まえての支援につなげる。
2	・放課後、対象児童への面談を定期的に行い。本人の困り感とご家族、担任の先生等それぞれの困り感に合わせて、授業時間にこだわらず、訪問の場を提案、相談している。	・本児の困り感を共有し、担任の先生の困り感を一緒に分析し、適切な時間帯の訪問を行っている。 ・直接的な困り感の場面を実際共有する。	・訪問先の困り感に対して、事業所職員や多職種も含め、支援者会議をタイムリーに開催できるように毎週曜日を決めて会議枠を計画しておく。
3			

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・職員配置が希望に対して不足していることから、ニーズに対する専門性の偏りがある。	・多機能型での事業運営を活かして、事業所職員の同行を検討。	・保育所等訪問事業の役割を理解し訪問支援同行が出来るよう事業所へ向けてのミニ講座や研修会を企画する。
2	・大集団での特性に対する対応方法に対する知識・技術が未熟であり、タイムリーな直接・間接的支援に時間がかかる。	・対象児童に対する特性理解と対処をするにあたり、対象児童との関わる時間が設けにくい。	・多機能型事業所を活かし、専門的支援を担いながら大集団へ般化できる様な支援の流れを作る。
3			